

ねこで わたしのしむ物語の世界

三戸町から11ぴきのねこくるよー～

親子で楽しむ絵本ワークショップ

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

【対象】 4歳～・小学生・中学生
(保護者の方も一緒に)

【募集人数】 子ども：30名 / 大人：15名
(事前申し込み優先、当日は先着順になります)

【参加費(税込)】 子ども：200円 / 大人：500円

▼事前申し込み



【会場】 八戸市美術館

開催日 2025

2月 8日
Sat

ニヤー

みんなに楽しく参加してほしい、親子で楽しむ絵本ワークショップのお知らせだよ!

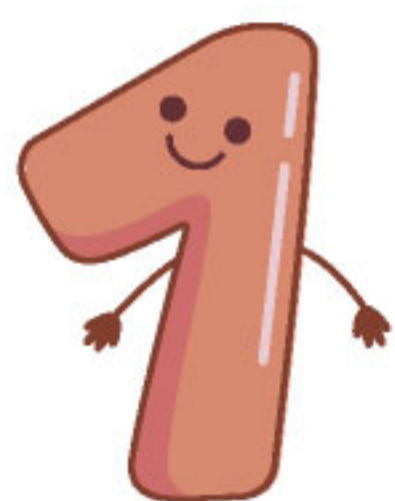
このワークショップでは、絵本の読み聞かせと、自分で絵本を作る体験ができるんだ。絵本の読み聞かせを通して、みんなは人の気持ちの変化を感じたりいろんなことを想像したりすることができるよ。想像力を育てると、お友達やまわりの人に優しくできるんだ。そして、見えない子たちも一緒に楽しめる、点字つきのアートを作る体験もあるよ。

これを通して、みんながもっとコミュニケーションの大切さを学べるんだ。

まずは、青森県三戸町出身の漫画家、馬場のぼるさんの『11ぴきのねこ』をみんなで楽しもう! 馬場さんと同じ場所で育ったことを知って、地元を誇りを持とうね。そして、見える子も見えない子も一緒に楽しめる点字つき絵本『音にさわる』の読み聞かせもあるよ。いろんな人の違いを大切にすることが学べるんだ。

ワークショップでは、みんなのアイデアを使って、点字つきアートを作ることもできるよ! 想像力をたくさん使って、楽しいストーリーを作ってみよう。みんなで一緒に、楽しく参加してみてね!

絵本「11ぴきのねこ」



読み聞かせ



10:00～10:45 (45分)

先生：三浦 文恵 教授

八戸市読み聞かせボランティア「青い鳥」

八戸学院大学短期大学部

このワークショップでは、みんなで青森県出身の絵本作家、馬場のぼる先生が描いた『11ぴきのねこ』を楽しむよ！

読み聞かせボランティアの「青い鳥」の三浦先生が、面白くて引き込まれるように読んでくれるから、物語の中にどんどん入り込んでいけるよ。

お話を聞くことで、みんなの想像力や読解力がぐんぐん伸びていくんだ。声のトーンやリズムを感じながら、登場人物の気持ちも一緒に考えてみよう！

そして、このワークショップでは、ママやパパにも楽しく読み聞かせをするためのヒントやアイデアも教えるから、家でもぜひ楽しんでね！

〈体験①〉 絵本の読み聞かせ体験



『11ぴきのねこ ころんこ』馬場のぼる
こぐま社

さわる世界の冒険者——広瀬浩二郎物語

てんじつき さわるえほん『音にさわる』読み聞かせ

先生：広瀬 浩二郎 教授

国立民族学博物館 人類基礎理論研究部



11:00～12:15 (75分)

限定特別ワークショップ



14:00～15:15 (75分)

※一般の方はこの時間帯ご参加いただけません

むかし、東京で広瀬浩二郎（ひろせ こうじろう）という男の子が生まれました。浩二郎くんは、小さなころから普通の子どもと少し違う体験をしていました。1歳半のとき、彼の目が見えにくくなる病気「白内障（はくないしょう）」と診断されました。その後、左目の視力を失い、右目も弱視（じゃくし）になりました。手術を何度も受けましたが、完全には回復せず、13歳のときには右目も完全に見えなくなり、霧（きり）のような白い霞（かすみ）に包まれた世界で生きることになったのです。

大きな冒険の始まり

目が見えなくなると聞いて、浩二郎くんはとても悲しかったそうです。でも、同時にこう思いました。「目が見えなくても、手でさわって、耳できいて、世界を感じることはできるはずだ。」彼は目にたよらない「さわる」ことで、どんなことができるのかをさぐり始めました。

こうして浩二郎くんは、自分の感覚を使って新しい世界を探求する冒険を始めました。それは、誰もがみのがしている小さな美しさや驚きを見つける旅でもありました。

見えないものを見る方法を発見！

浩二郎くんは筑波大学附属盲学校（つくばだいがく ふぞく もうがっこう）で勉強をがんばり、さらに点字（てんじ）を使って京都大学文学部に合格しました。これは、京都大学初の全盲（ぜんもう）の学生だったので、大きな注目を集めました。大学では、日本の歴史や文化について学びました。

でも、浩二郎くんはこう考えました。「人間って、本当はいろんな感覚（かんかく）を使って生活しているんじゃないかな。でも、目が便利だから、つい目に頼りすぎてしまうことってあるよね。そうすると、手で触れることや耳で聞くこと、ほかの感覚を忘れちゃうんじゃないかな。」

そう思った浩二郎くんは、「さわる」という体験が、忘れられた感覚を取り戻す大切なきっかけになるのではないかと考え始めました。それは、まるで閉じられた扉をもう一度開いて、感覚という宝箱を探す冒険のようでした。



盲学校時代



大学時代



柔道をする浩二郎くん



全身を動かしながら 作品のダイナミックな
エネルギーを感じてみるというさわり方をします

間島秀徳さんの作品「Kinesis No.743(dragon vein)」(2021年)に両手で触れて鑑賞する広瀬浩二郎さん(写真・国立民族学博物館YouTubeより)

世界中の文化をさわる研究者

大人になった浩二郎くんは、国立民族学博物館（こくりつみんぞくがくはくぶつかん）という場所で働くようになりました。そこでは、世界中の文化やアートを研究し、「さわれる」という方法で人々にその魅力を伝える活動をしています。

浩二郎くんは特別な博物館を作りたいと思いました。それは、目が見える人も見えない人も一緒に楽しめる「ユニバーサル・ミュージアム」です。この博物館では、みんなが展示物に「さわる」ことで、新しい発見をすることができます。

さわるとわかる わかるとかわる

浩二郎くんは、こう言います。「アートや文化をさわったことはある？目で見るだけじゃなくて、さわって感じると、もっと面白い発見ができるよ！」

たとえば、手でふれる物には、それを作った人の思いやどんなふうで作られたのかという物語があります。「この作品を作った人はどんな気持ちで作ったんだろう？」と考えながらふれると、物との距離がぐっと近くなるんだ、と浩二郎くんは気づきました。

「作家が手で作った作品をさわると、その作家の心や思いが手を通して感じられることがあるんだ。」と浩二郎くんは言います。

この考え方は、多くの人々に新しい気づきを与えています。そして、「さわること」が人と人、そして社会をつなげる力になると信じているのです。

《この物語のメッセージ》

目で見ることだけがすべてではありません。手でさわって感じる、耳で聞くこと、そして心で考えることで、私たちは新しい世界を発見することができます。

浩二郎先生は、「さわる」という体験を通して、人間が持つ感覚の豊かさを取り戻すきっかけをつくってきました。それは単に障がい者対応や弱者支援にとどまらず、すべての人が感覚を活かして世界とつながることを目指しているのです。

冒険や挑戦には、本気を出さないと乗り越えられないこともあります。浩二郎先生の物語は、そんな困難を乗り越えながら新しい世界を発見する力を教えてくれるだけでなく、その発見をみんなと共有し、喜び合うことの大切さを伝えています。

ワークショップに参加して、みんなで音にふれる体験をしてみませんか？

てんじつき さわるえほん『音にさわる』を読みながら、「さわる」ことでさまざまな感触や音を楽しみましょう！

さらに、点字を使ったアートにも挑戦できます。点字を模様のようにアレンジして、見える子も見えない子と一緒に楽しめる素敵なアートを作しましょう！

〈体験②〉 点字模様アートをつくろう



魁皇像
背伸びをして正面から鎖骨をさわる



国立民族学博物館の前庭にある
トーテムポールをさわる



ユニバーサル・ミュージアム連載
カヌー鑑賞





先生：高橋 史朗（たかはし ふみあき）教授
 八戸工業大学 感性デザイン学部 教授



13:00～13:45 (45分)

ゆかいな 本の なつかしい お話

楽しくておもしろい
 本をつくるには
 どうしたらいいのかな。
 このワークショップでは

楽しい本を作る
 ヒミツについてお話をきいたあと
 絵本のキャラクターや
 ストーリーをみんなで考えてみます。



じつはね、ワクワクおもしろい絵本にするコツは
 「へんなくみあわせ」のものがたりにすることなんだよ。
 だって、あたりまえじゃ、つまらないもんね。

いっしょになんとかへんなモノやちょっとかわった
 キャラクターを作って、どんどん z
 よみたくなる絵本にしていこう。z z

楽しいアイデアを
 いっぱい出してね！



〈体験③〉 アイデアワークショップ

絵本『11ぴきのねこ』読み聞かせ

🕒 10:00 ~ 10:45 (45分)

てんじつき さわるえほん『音にさわる』読み聞かせ

🕒 11:00 ~ 12:15 (75分)

限定特別ワークショップ

🕒 14:00 ~ 15:15 (75分)

※一般の方はこの時間帯ご参加いただけません

ゆかいな本のなかみのお話

🕒 13:00 ~ 13:45 (75分)

no one will be left behind



- みんな、このワークショップでは「スタンプラリー」も楽しめるよ！
3つのワークショップの体験が終わるたびにスタンプをもらえるんだ。
どんどん楽しい気持ちが増していくよ。
10:00から参加して全スタンプを集めたらちょっと楽しいことが起こるよ！

【当日の撮影にご協力をお願いいたします】

イベントの様子を記録として撮影させていただきます。
撮影した写真や映像は、WebサイトやSNSへの掲載
各機関への報告書などに使用させていただく
場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※参加者の中で、顔が掲載されることに
不都合がある方は
個別にご連絡いただきますよう
お願いいたします。

〈会場アクセス〉八戸美術館 〒031-0031 青森県八戸市大字番町 10-4
Tel.0178-45-8338



〈主催・お問合せ〉一般社団法人 TOCOL <https://www.tocol.net/> E-mail donna@tocol.net

〈後援〉青森県教育委員会／八戸市／東奥日報社／デーリー東北新聞社／
弘前大学／八戸工業大学／八戸学院短期大学部／国立民族学博物館

〈協賛〉株式会社トイ 愛瀬詩塾（えみしじゅく）